

令和5年12月1日  
(2023年)

保護者の皆様へ

吹田市立江坂大池小学校  
校長 花田 郁子

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページで公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に注力することが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として、児童の学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善を図ってまいります。各家庭・園におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

### 1 教科に関する調査の分析

#### ●国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

##### (1)＜知識・技能＞ 全国値をやや上回っている

- ・言葉の特徴や使い方に関する事項について、全国値をやや下回っている。漢字について、文の中で正しく使うことはできているが、文章の種類や特徴(提案文、推薦文等)を意識しながら読むことや、日常生活で使用する敬語の理解について、課題がみられる。また本領域は無回答率が高い。
- ・情報の扱い方に関する事項について、全国値を上回っている。原因と結果、語句と語句等、情報の関係性について理解できている。

##### (2)＜思考力・判断力・表現力等＞ 全国値を上回っている

#### A 話すこと・聞くこと 全国値をやや上回っている

- ・インタビューの様子が示された文章で、聞き手の質問の意図や理由を捉える問題は全国値をやや上回っている。
- ・話し手の話の内容を捉え、話し手の考えと自分の考えを比較しながら、考えをまとめる問題について、全国値を上回っている。

## **B 書くこと** 全国値を上回っている

- ・学校で米作りを行う際の問題点と解決方法について、図表やグラフで示された内容を反映させながら書く問題は、全国値を上回っている。

## **C 読むこと** 全国値をやや上回っている

- ・2つの資料(文章)を読み、中心となるキーワードや文を見つけたうえで、要約する問題は、全国値をやや上回っている。
- ・文章を読んで、理解したことを基にして自分の考えをまとめる問題は、全国値をやや下回っている。考えをまとめるうえで、文章の中から様々な条件を抜き取ることに課題があるといえる。

### 《国語科における成果と今後の改善点について》

今回は社会、家庭科、総合的な学習等、他教科の学習場面から出題されています。教科横断的な教育活動(カリキュラム・マネジメント)を意識し、国語以外の他教科においても「読む・書く・話す」等の言語活動を積極的に取り入れていく必要があります。

また書くことについては、昨年度の結果に比べ、大きく正答率が上昇しているとともに、無回答率もやや減少しました。普段の授業等で書く活動に積極的に取り組んだ成果として、文章を書くことへの抵抗が低くなったと考えます。ただし、自分の考えをより正確に伝えるために、「資料から分かったことを基にして書く。」「一定の言葉や文を用いて書く。」等、条件に合わせて取り組む問題が多く、このような形式で文章を書く活動は意識していきたいと思います。

### ●算数《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

## **A 数と計算** 全国値を上回っている

- ・小数の加法、乗法の正答率が高く、基本的な計算力は十分定着しているといえる。また日常生活の場面を捉え、その場面に応じた計算方法を適用することができている。
- ・計算力が定着している一方、筆算の仕方や意味を理論的(数学的)に捉える問題は、全国値を上回るものの、正答率は高くない。

## **B 図形** 全国値をやや上回っている

- ・台形の意味や性質を問われる問題は全国値をやや下回っている。また正三角形の意味や性質を問われる問題は全国値を上回るものの、正答率は高くない。
- ・底辺と面積の関係から面積の大小を判断し、理由を記述する問題は全国値を大きく上回っている。全体的に記述式の問題の正答率は良い。

### C 変化と関係 全国値を上回っている

- ・伴って変わる2つの数量について、表から変化の特徴を読み取ることができている。また比例の関係を用いて、知りたい数量の求め方を言葉や式で表す問題も、全国値を大きく上回っている。
- ・百分率で表された割合の意味を答える問題は、全国値を上回るものの、正答率は高くない

### D データの活用 全国値を大きく上回っている

- ・複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを言葉や式を用いて記述する問題は、全国値を上回っている一方、無回答率は1割を超える。

## 《算数科における成果と今後の改善点について》

全ての領域で全国値を上回る結果であり、基礎基本の徹底は図られていると考えられます。

しかし図形の領域において、三角形や台形の性質を理解し、活用する力に課題が見られました。

また上記した百分率の問題から、算数的な考え方を日常生活の具体的な場面に当てはめることに課題がありました。

昨年度、課題として挙げていた記述式の問題の正答率が上がりました。授業内における思考する活動及び授業の内容についての振り返り等を通して、自分の考えを書く機会を確保してきた成果であり、今後も全学年で継続していきます。

## 2 児童質問紙(生活習慣、学習等に関する調査)の傾向

### 【教科・学習について】

- ・「英語の勉強は好きですか」の質問に対し、肯定的回答は85.6%、また「英語の勉強は大切ですか」の質問に対し、肯定的回答は100%であり、非常に高水準である。今後も引続き、AET等を積極的に活用するとともに、ICT機器の活用の研究を進めながら、低学年から生の英語に触れられる機会を確保していく。
- ・記述式の問題への取り組み方として、「全ての書く問題で最後まで書こうと努力した。」と回答した児童は、国語で85.9%、算数で89.1%であり、いずれも全国値を上回っている。

・「家では、自分で計画を立てて勉強していますか。」という質問に対し、肯定的な回答は66.1%で、全国値をやや下回っている。学校の授業以外での勉強時間が30分以上の児童も78.4%で全国値を下回っている。家庭・園と連携し、宿題等を活用しながら学習習慣の確立に努める必要がある。

### 【基本的な生活習慣等について】

・「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。」「毎日同じくらいの時刻に起きていますか。」「朝食を毎日食べていますか。」では、肯定的回答が全て90%を超えており、安定した学校生活につながっているといえる。

### 【規範意識・自己有用感等について】

- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。」では、肯定的回答が100%であった。引続き、道徳の授業やいじめ予防授業等をおおして、低学年から人権意識の構築に努めていく。
- ・「将来の夢や目標を持っていますか。」では、肯定的回答が75.4%で、全国値を下回っている。まずは、身近な学校生活等の中で、一人一人が学習や生活の目標を持てるように意識付けしていく必要がある。
- ・「自分には、よいところがあると思いますか」では、肯定的な回答をした児童が90.8%おり、また「先生はあなたのよいところを認めてくれる。」では、98.5%の児童が肯定的回答をしている。今後も教職員と児童の信頼関係を密に構築し、子供たちを適切にエンパワメントしていけるように努めていく。

## 3 今後の取り組み

学習状況調査からは、子どもたちの学びに向かう意欲や、自尊感情の安定がうかがえました。さらに、学力調査からは、概ね5年生までの学習内容が定着していることが分かる結果でした。

これは、ご家庭や園でしっかりと子どもを支え、学校での学びを定着させていただいている結果だと思います。

学校においても、この結果を踏まえ、今後、子どもたちの良いところをさらに伸ばしていくとともに、学習指導要領で示される、子どもが自ら課題を見つけ、主体的に学習したことを活用し、問題を解決しようとする力の育成、そして個別最適な学びに向けて、一人一台の端末の積極的な活用に取り組んでいきたいと思ひます。

分析結果を全教職員で共有し、学校全体で授業改善に取り組み、また生活指導を充実させ、一人ひとりの子どもの資質、能力を高め、また学校全体の教育力の向上を目指していきます。今後とも、本校の教育活動にご理解ご協力を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。